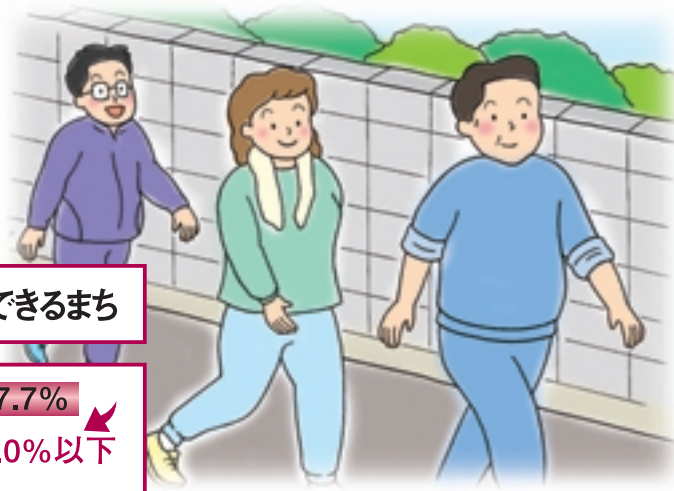


第1項

健康づくりの推進



目標 すべての人が健やかで心豊かに生活できるまち

数値目標	運動不足と感じている人(成人)の割合 ^{※80}	2001年度	77.7%
		2011年度	50.0%以下
数値目標	ストレスを感じている人(成人)の割合 ^{※81}	2001年度	61.7%
		2011年度	55.0%以下

取り巻く環境(現状と課題)

生活習慣病の増加

医療技術の進歩,生活水準の向上などにより,平均寿命は延び,市民の健康水準も改善されていますが,肥満を始め生活習慣病の原因となるメタボリックシンドローム^{※82}が増加しています。

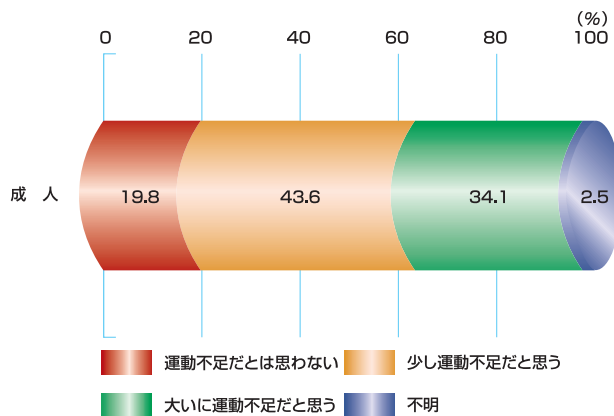
地域での健康づくりの重要性

生活習慣病の予防の重要性について市民の理解を深めるため,ボランティアなどと協力した地域での健康づくりを進める必要があります。

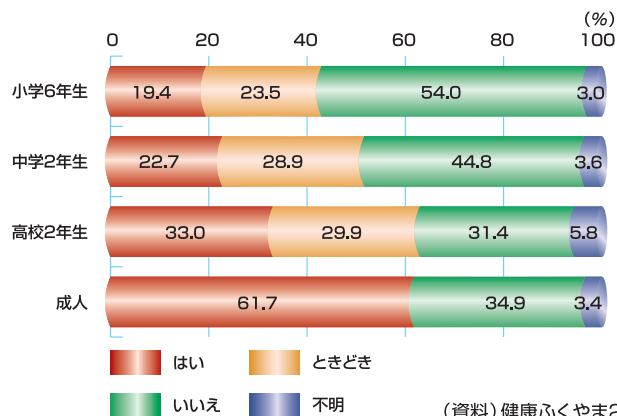
「こころ」の健康づくりの必要性

ストレスによる心身症や精神疾患の人が増加しており,集える場から就労の場までを支援できる体制づくりなど,「こころ」の健康づくりが必要です。

運動不足と感じている(成人)の割合
「2001年度(平成13年度)」



ストレスを感じている人の割合
「2001年度(平成13年度)」



(資料)健康ふくやま21

80 運動不足と感じている人(成人)の割合:「健康ふくやま21市民意識調査」による。

81 ストレスを感じている人(成人)の割合:「健康ふくやま21市民意識調査」による。

82 メタボリックシンドローム:内臓脂肪型肥満のことで,肥満,高血圧,高血糖,高脂血症などが重複し動脈硬化が進む状態のこと。

「目標」を達成するための取組

成人保健対策の強化

健診の受診率を高めることにより,生活習慣病など疾病の早期発見・早期治療に努め,市民自らが健康づくりを行えるよう支援します。

- 健診・健康相談の充実
- 生活習慣病予防などの啓発

地域における健康づくりの推進

市民や地域のボランティアと連携して健康づくりの事業を進め,運動や食生活を始めるとする生活習慣の見直しなど,地域における健康づくりの重要性を啓発していきます。

- 運動普及の推進
- 食生活改善の推進
- 健康づくりの啓発

こころの健康づくりの推進

精神障害に対する正しい知識の普及や,こころに不安や悩みを抱えている人などへの健康相談などを実施します。

- 精神保健福祉相談の充実
- 精神保健福祉の啓発



さわやか運動教室



「健康ふくやま21」のマスコットキャラクター「ふくっぴー」

市民として



自分に合った健康づくりをしましょう。

第2項

食育の推進



目標 食文化を大切に、バランスのとれた食生活を実践するまち

数値目標

朝ごはんを食べない人の割合 ^{※83}	
小3 14.2%, 小6 17.7%, 中2 16.7%, 高2 24.1% (2001年度)	➔ 0% (2011年度)
成人 16.2% (2001年度)	➔ 15.0%以下 (2011年度)
ふくやまブランド ^{※84}	2005年度 21品目 ➔
農産物の出荷品目数	2011年度 25品目
学校給食における地場産物を使用する割合	2006年度 17.0% ➔
	2011年度 30.0%

取り巻く環境(現状と課題)

肥満や過度のやせ志向の増加

脂肪分のとり過ぎ、野菜の摂取不足、朝食をとらないなど食生活が乱れ、肥満の増加や過度のやせ志向などが見受けられます。そのため、正しい食生活の啓発が必要です。

孤食、個食の増加

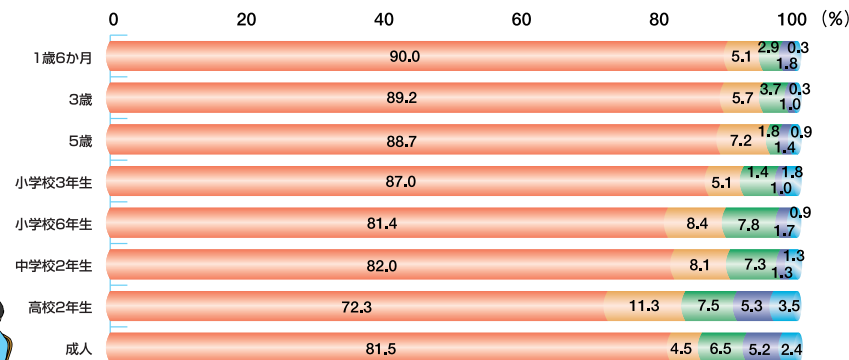
家族がいても一人で食べる「孤食」や家族が別の料理を食べる「個食」などが見受けられます。孤食などを防ぎ、楽しく食事をし、心身の健康づくりと豊かな人間づくりを支援することが必要です。

食文化に対する再確認

食の欧米化が進み、栄養バランスの良い日本の伝統料理が失われつつあります。地域に伝わる様々な食文化を次世代へ伝承し、広めていくことが必要です。

朝食を食べている人の割合「2001年度(平成13年度)」

- 毎日食べる
- 週に4~5回食べる
- 週に1~3回食べる
- ほとんど食べない
- 不明



(注) 1歳6か月~5歳は保護者が、その他は本人が回答。
(資料) 健康ふくやま21

83 朝ごはんを食べない人の割合:「健康ふくやま21市民意識調査」による。
84 ふくやまブランド農産物:ふくやまブランド認定生産者団体が出荷する農産物のこと。

「目標」を達成するための取組

食育推進体制の確立

子どもから高齢者まで生涯にわたった食育に市民とともに計画的に取り組みます。

- 食育推進基本計画の策定
- 食育推進体制の整備

健全な食生活の推進

家庭や地域、保育所、学校などで食を通じた健康づくりや子育て支援に取り組み、心身の健康づくりを進めます。また、企業などへの栄養改善に関する情報提供などを行います。

- 食による健康づくり
- 地域における食生活改善の推進

地域における食文化の継承と創造

郷土料理・伝統料理の普及など、地域の多彩な食文化を継承します。また、地元で生産された農産物を地域で消費する地産地消の取組を進めます。

- 食文化の継承活動への支援
- ふるさと自慢料理の創出・開発
- 地産地消の推進



食事バランスガイド
~バランスの良い食事の種類と量~



子どもの料理教室



ふくやまSUN農産物アンテナショップ(地産地消)

市民として

好き嫌いをせず、1日3食、きちんと食べましょう。

85 地産地消:地域で生産された食材をその地で消費すること。身近な地域と食の結びつきを深めていくことによって、地域の農業や伝統的な食文化を守り、いきいきとした地域社会づくりを進めようという取組のこと。

第3項

地域保健・医療体制の強化



目標

感染症予防・医療体制が充実し、市民が安心して生活できるまち

数値目標

結核接触者健診の受診率	2005年	77.4%
	2011年	90.0%以上
狂犬病予防注射の接種率	2005年度	68.8%
	2011年度	80.0%以上

地域に合った医療体制づくり

市民が適切な医療を受けられるように地域に合った医療体制の整備や医療機関の間での連携が必要です。また、市民病院は、救命救急やがん医療を強化するとともに、地域の中核病院として地域医療機関との連携強化が必要です。

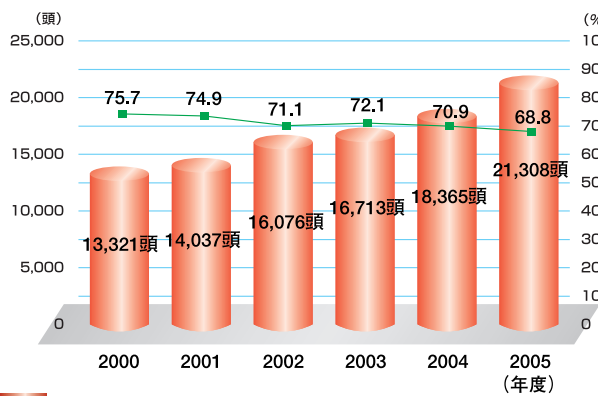
感染症に対する不安の高まり

O157やノロウイルス、結核、HIVなど感染症のまん延防止対策や新型ウイルスへの備えが必要です。また、狂犬病が人に感染し発症すると、ほぼ死に至るため、予防対策が重要です。

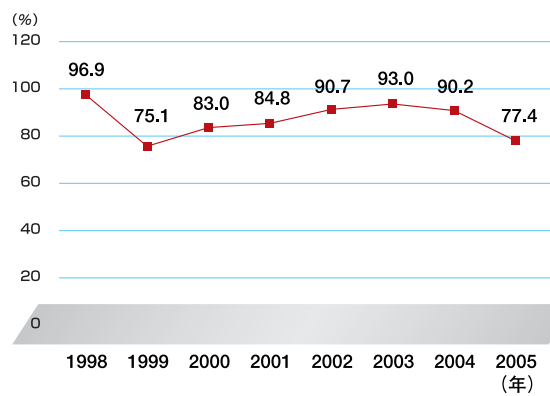
食の安全に対する不安の高まり

食品表示やBSE⁸⁷など、食の安全・安心に対する市民の関心が高まっています。効果的な食品衛生監視指導を通して、食の安全・安心を確保し、食品による健康被害を未然に防止することにより、市民の健康を守ることが重要です。

犬の登録頭数と狂犬病予防注射接種率の推移



結核接触者健診受診率の推移



(注) 2002年(平成14年)までは「年度」で集計

(資料) 福山市保健所事業概要

86 結核接触者健診:結核患者の接触者(家族など)に対して臨時に行う健康診断のこと。

87 BSE:Bovine Spongiform Encephalopathy(牛海綿状脳症)の略。BSEプリオンと呼ばれる病原体が、主に脳に蓄積することによって、脳の組織がスポンジ状になる牛の病気のこと。

「目標」を達成するための取組

地域医療体制の強化

地域での三次救急⁸⁸やがん医療などの高度医療の提供、災害等における医療供給体制を確保します。また、地域医療機関などとの連携をより緊密にし、強化します。

- 市民病院の機能充実
- 災害等の医療体制の整備
- 地域医療連携強化

感染症予防対策の強化

感染症の発症を予防し、そのまん延を防止するための啓発を行うとともに、予防接種や結核の接触者健診、HIV抗体検査などの推進や相談体制を充実します。また、飼い犬の登録管理を徹底し、狂犬病予防注射の接種率を高めます。

- 感染症予防対策
- 予防接種の推進
- 狂犬病予防対策の強化

食の安全・安心の確保

食品の製造・加工・調理段階における監視指導や流通、販売段階における検査体制などを充実します。

- 食の安全・安心の確保
- 食品営業施設などの監視指導



福山市民病院救命救急センター



食品衛生監視

市民として



手洗いやうがいを心がけ、感染症を予防しましょう。
飼い犬の狂犬病予防注射を毎年受けましょう。

88 三次救急:集中治療や緊急手術が必要な重症な救急患者に対し、高度な医療を総合的に提供する医療体制のこと。